

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 15 日

所属	会計ファイナンス 研究科	職名	教授	氏 名	中村元彦
研究課題	会計分野におけるデータの信頼性に関する研究				
研究キーワード		当年度計画に対する 達成度	選択してください（プルダウン）		
関連する SDGs項目	8. 働きがいも経済成長 も	17. パートナリーシップで 目標を達成しよう	該当なし	該当なし	
1. 研究成果の概要 会計分野における電子データの活用の動きは進んで来ており、特に、税務分野における制度としての動きが急速に進んでいる。このような動きが進んで来ている中で、作成されたデータの信頼性が重要であり、この点に着目して研究を実施した。 近年、クラウド会計と呼ばれるサービスでは、領収書やインターネットバンキングデータから自動で仕訳を作成する機能が実装されているが、紙の領収書から作成される仕訳は必ずしも正しいものではなく、実際の実験により現状の問題を【学会発表等】2において明らかにした。また、上場会社を中心として、サイバー攻撃によるデータの信頼性が脅かされる事件が発生しており、このサイバーセキュリティに対する内部統制に関して【学会発表等】1において明らかにした。 【著書・論文（査読なし）】1において、内部統制報告制度における IT 統制を中心に、財務報告における会計データの信頼性を確保する内部統制に関して明らかにしている。また、【著書・論文（査読なし）】2において、税務分野におけるデータの信頼性に繋がるデジタルインボイスや電子帳簿保存法に関して、最近の状況について明らかにした。 2. 著書・論文・学会発表等 （できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載） 【論文（査読あり）】 【著書・論文（査読なし）】 1. 「内部統制報告制度に係る IT 統制と監査」、『DX 時代の IT 監査・IT ガバナンスの実務』、同文館出版、2025 年 2 月、一般社団法人日本内部監査協会（編集）：第 5 章に関して担当 2. 「インボイス制度開始後の税務における電子化の動向ーデジタルインボイスと電子帳簿保存法改正を中心とした中小企業への影響の考察ー」『会計学の新展開』、株式会社 CUC サポート、2025 年 3 月、寺野隆雄・谷川喜美江・榊岡源一郎（編集）、原科幸彦（監修）：「第 2 章 2-3 インボイス制度開始後の税務における電子化の動向ーデジタルインボイスと電子帳簿保存法改正を中心とした中小企業への影響の考察ー」を担当（P43-P55） 【学会発表等】 1. 日本ガバナンス研究学会第 17 回年次大会（2024 年 10 月 5 日、追手門学院大学）、発表タイトル：「内部統制の観点から見たサイバーセキュリティ」 2. 中小企業会計学会第 12 回全国大会自由論題報告（2024 年 11 月 17 日、沖縄大学本キャンパス）、会計ファイナンス研究科小池聖一・パウロ氏との共同発表、発表タイトル：「財務会計ソフトウェアでの AI 導入内容					

の現状と展望」

3. 主な経費

書籍や研究に利用するソフトウェアなどに使用した

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

①日本監査研究学会第 47 回全国大会（2024 年 9 月 13 日－9 月 15 日：立命館大学いばらきキャンパス）において、「わが国におけるダイレクト・レポーティングの採用について」（『現代監査』第 34 号所収）が監査研究奨励賞を受賞した。

②経済産業省「システム管理基準追補版改訂作業部会委員」：2024 年 12 月 25 日に改訂版を公表

③日本公認会計士協会「テクノロジー委員会 監査データアナリティクス対応専門委員会」

④白井市「特別職等報酬審議会委員」：2025 年 1 月に答申書公表

（本文は 2 ページ以内 にまとめること）